

# 三富今昔村の森で見られるいきもの

## 三富の春

			
<p><b>シュンラン</b> —ラン科 3～4月— 林床で春の光を浴びて清楚な花を咲かせます。埼玉県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。</p>	<p><b>タテツボスミレ</b> —スミレ科 4月— 春の雑木林を彩る代表種です。スミレの中でも山野で最もよく見られます。花は淡紫色です。</p>	<p><b>ミツバツチグリ</b> —バラ科 4月— 日当たりの良いところで見られます。葉は三小葉からなり、縁にギザギザがあるのが特徴です。</p>	<p><b>フデリンドウ</b> —リンドウ科 4月— 日当たりの良いところで見られます。花の形が筆の穂先に見えることから名づけられました。</p>
			
<p><b>クサイチゴ</b> —バラ科 3～5月— 茎や葉など全体にトゲがあるのでさわるときには注意が必要です。花は白い5弁花です。</p>	<p><b>テゴユリ</b> —ユリ科 5月— 小さなかわいらしい花を子ども(稚児)に例えたことから名づけられました。下向きに咲きます。</p>	<p><b>ヤマザクラ</b> —バラ科 3～4月— 花は淡桃色の5弁花で、花と葉が同時に開きます。樹皮は黒っぽいのが特徴です。</p>	<p><b>ジュウニヒトエ</b> —シソ科 4～5月— 花が幾重にも重なって咲く様子を、昔の女官の衣装に見立てたのが由来です。</p>
			
<p><b>コブシ</b> —モクレン科 3～4月— 春一番に、他の木が芽吹く前に大きな白い花を咲かせるので、見つけやすいです。</p>	<p><b>コナラ</b> —ブナ科 4～5月— 春先の芽吹きは写真のように、毛におおわれた葉をつけます。雌雄異花で、長く垂れ下がった雄花が枝にたくさんつきます。</p>	<p><b>エゴノキ</b> —エゴノキ科 5～6月— 花は下向きに咲き、新緑の葉と白色のコントラストがきれいです。白い果実の皮をもむと泡が出て、石鹸として使えます。</p>	<p><b>キランソウ</b> —シソ科 3～5月— 地面に這うようにして日当たりの良いところに咲きます。濃い紫色が特徴です。</p>
			
<p><b>ヒトリシズカ</b> —センリョウ科 4～5月— 白く清楚な姿が静御前(しずかごぜん)に例えられたのが名前の由来です。しかし、実は白いの花弁ではなくおしべです。</p>	<p><b>ギンラン</b> —ラン科 5～6月— 埼玉県の絶滅危惧種に指定されています。黄色の花を咲かせるキンランに対し、白い花を咲かせます。</p>	<p><b>ミヤマセリ</b> —セセリチョウ科 3～4月— 模様が地味ですが蝶の一種です。この蝶はあまり高く飛ばずに低いところにある若枝に産卵します。</p>	<p><b>ツマキチョウ</b> —シロウチョウ科 3～5月— オスは翅(はね)の上先端部分がオレンジ色で、雄雌が簡単に見分けられます。後翅の裏は枯草にまぎれるような模様になっています。</p>

# 三富今昔村の森で見られるいきもの

## 三富の夏



### ヤマユリ

—ユリ科 6～7月—

昔は農家にとって食用となる大切な植物で、雑木林の下刈りでも残っていました。石坂産業のシンボルフラワーです。



### オオバンボンボソウ

—ラン科 6～7月—

花がトンボのような形をしていることからこの名前がつけました。埼玉県準絶滅危惧種です。



### オオバギボウシ

—キジャクシ科 6～8月—

花は一日花で薄紫色をしています。若葉はウルイと呼ばれ、山菜として好まれます。



### ネムノキ

—マメ科 6～7月—

夜になると葉が閉じることから名づけられました。赤色に見えるのは花ではなく、おしべです。



### クリ

—ブナ科 6月—

実が有名な種類ですが、この写真はクリの雄花です。クヌギとよく似た葉をつけます。



### ノリウツギ

—アジサイ科 7～9月—

樹液を和紙を漉く際の糊に利用したためこの名前がつけました。葉の緑に白い花がよく映えます。



### キンミズヒキ

—バラ科 7～10月—

黄色の花が密集して咲きます。長くたくさんの赤い花をつけるミズヒキに似ていることから名づけられました。



### ジャノヒゲ(花)

—ユリ科 7～8月—

冬でも葉が枯れない多年草です。冬に光沢のある美しい青色の実をつけます。



### アブラゼミ

—セミ科 7～9月—

茶色のまだら模様の翅を持つことが特徴です。ストローのような口を樹の幹にさし込んで樹液を吸います。



### ヒグラシ

—セミ科 7～9月—

背面は茶色で黒色と緑色の斑紋があるのが特徴です。おもに早朝と夕方「カナカナカナカナ…」とやさしく鳴きます。



### ナツアカネ

—トンボ科 6～11月—

アキアカネよりやや小さく、オスは成熟すると全身が真っ赤に染まります。



### アキアカネ

—トンボ科 6～12月—

赤とんぼの代表種です。頭と胸はあまり赤ならず、腹部に黒い模様があることが特徴です。



### ニイニゼミ

—セミ科 7～9月—

背面は樹の幹そっくりのまだら模様です。ほかの種類よりやや早く出始めます。サクラの樹でよく見かけます。



### ヤマトフキバツタ

—バッタ科 7～9月—

短く茶色い翅を持っていますが飛ぶことはできません。薄暗いところでキやクズなどの葉を食べています。



### ルリタテハ

—タテハチョウ科 6～11月—

紺色地の翅にルリ色のラインがあることが特徴です。地面に止まっている姿をよく見かけます。



### ウラナミアカシジミ

—シジミチョウ科 6月—

翅の裏側にだいたいの色と黒色の縞模様を持つ蝶です。屋間はあまり飛ばず、夕方に飛び回ります。

# 三富今昔村の森で見られるいきもの

## 三富の秋

			
<p><b>リンドウ</b> —リンドウ科 11月— 秋遅く咲く花はあまり多くないため、林床を紫に彩るリンドウの花は目立ちます。</p>	<p><b>ハギ</b> —マメ科 8～9月— 秋の七草のひとつです。赤紫色の蝶の形をした花を咲かせます。</p>	<p><b>アキノキリンソウ</b> —キク科 8～11月— 70cmもの高さになり、黄色い花をたくさんつけます。以前は日本の里山風景に多くみられた花でしたが、現在は減少しています。</p>	<p><b>シラヤマギク</b> —キク科 8～10月— 草丈1mほどで林縁に生え、葉は大きなハート形をしています。直径2cmほどの小さな花を咲かせます。</p>
			
<p><b>ツリガネニンジン</b> —キキョウ科 8～10月— 花は薄紫色の釣鐘(つりがね)状で根がニンジンのように太いことから名づけられました。</p>	<p><b>ワレモコウ</b> —バラ科 8～10月— 高さが1mほどの茎の先端に暗紅色の穂状の花をつけます。花が枯れても姿が残っています。</p>	<p><b>ヤマウルシ</b> —ウルシ科 11～12月— 葉柄が赤く秋には葉が紅葉して全体が真っ赤に染まります。かぶれるので触らないようにしましょう。</p>	<p><b>モミジ</b> —カエデ科 11～12月— 黄色や紅色、さらには黄色から紅色のグラデーションなど、紅葉の仕方は葉によって様々です。</p>
			
<p><b>ヒョドリジョウゴ</b> —ナス科 11～12月— ツル性植物で秋にきれいな赤い実をつけますが、毒があるので食べられません。</p>	<p><b>ツルウメドキ</b> —ニシキギ科 10～12月— 果実が割けて中から赤い皮に包まれた種子が見えます。甘みがあり鳥にとっては貴重な冬の食料です。</p>	<p><b>ヤマノイモ(むかご)</b> —ヤマイモ科 10～12月— 葉のつけ根についた丸いものがむかごです。炊き込みごはんにしたり、煎って食べるとおいしいおやつになります。</p>	<p><b>ガmazumi(実)</b> —レンブクソウ科 9～10月— 5,6月に白い花を咲かせ、秋には赤い実をつけます。実は少し酸っぱいですが食べられます。鳥たちのごちそうです。</p>
			
<p><b>センブリ</b> —リンドウ科 11月— とても苦いと言われる有名な薬草。埼玉県の絶滅危惧種に指定されています。日当たりの良いところで咲きます。</p>	<p><b>ツムシ</b> —ツムシ科 7～11月— 全身が緑色のキリギリスの仲間です。日中は原っぱで草の葉を食べている姿が見られます。</p>	<p><b>ミツカドコロギ</b> —コロギ科 8～11月— オスの頭部が三角形であることが名前の由来です。体色は焦げ茶と褐色のまだら模様です。ジツジツと鳴きます。</p>	<p><b>エンマココロギ</b> —コロギ科 8～11月— 全体が焦げ茶色の体長2.5～3cmと国内のココロギの中では最大です。翅を擦り合わせコロコロと鳴きます。</p>

# 三富今昔村の森で見られるいきもの

## 三富の冬

			
<p><b>チャノキ</b> —ツバキ科 11～12月— やや暗い林内でツバキに似た白い花を咲かせます。チャノキはコナラやクヌギと違って冬でも葉をつけています。</p>	<p><b>クヌギの葉の紅葉</b> —ブナ科 12月— 葉は細長くてつやがあり縁にトゲ状のギザギザがあります。</p>	<p><b>シラカシのドングリ</b> —ブナ科 12～2月— コナラのドングリと似ていますが、シラカシのドングリには、帽子に横縞の模様があります。</p>	<p><b>ヒノキ(実)</b> —ヒノキ科 12月— まるでバスケットボールのような形をしています。大きさは1cmほどです。</p>
			
<p><b>コナラのドングリ</b> —ブナ科 12月～2月— シラカシのドングリと似ていますが、コナラのドングリの帽子は、模様はなくザラザラしています。</p>	<p><b>アカマツ(実)</b> —マツ科 12月— 秋から冬にかけ、実をつけます。まつぼっくりとも呼ばれます。鱗のような実をリスなどが食べ、「えびふらい」になります。探してみてください。</p>	<p><b>ジャノヒゲ(実)</b> —ユリ科 10～3月— 光沢のある青色の実はとても堅く、皮をむくと白色の種子が出てきます。地面に投げるとよく弾みます。</p>	<p><b>ゴマダラチョウ</b> —タテハチョウ科 通年— 夏から秋にかけてエノキの葉を食べて成長し、冬は落ち葉の裏側でじっとしています。</p>
			
<p><b>ヤママユの繭(まゆ)</b> —ヤママユガ科 12～2月— やや黄緑色を帯び卵形で4cmほどの大きさです。地上の落ち葉の影などで見られます。</p>	<p><b>イラガの繭(まゆ)</b> —イラガ科 12～2月— 1cmほどの卵形で白黒の特徴的な模様があります。冬の枝先や枝の分岐点などにくっついています。</p>	<p><b>ヤマガラ</b> —シジュウカラ科— 顔は白黒模様、腹部はだいたい色で人を見てもあまり逃げません。芋虫や木の実を食べます。</p>	<p><b>シジュウカラ</b> —シジュウカラ科— 頬が白く、胸から腹にかけて黒いネクタイのような模様があります。</p>
			
<p><b>ツグミ</b> —ツグミ科— 夏はシベリアで繁殖し、冬になると中国や日本へ越冬のためにやってきます。</p>	<p><b>シメ</b> —アトリ科— ムクノキ、エノキ、カエデなどの種子を主食としています。シーと聞こえる鳴き声と、鳥を意味する「メ」が名前の由来です。</p>	<p><b>コゲラ</b> —キツツキ科— スズメと同じくらいの大きさで、日本に生息するキツツキの仲間では最も小さい種類です。</p>	<p><b>エナガ</b> —エナガ科— 名前は長い尾を柄の長いひしゃくにたとえたことに由来しています。</p>